

第33回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2015年1月30日(金) 18:15より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)303号室

演題 “近現代イングランドにおけるプロ・フットボールのガバナンス
—フットボール争議の分析を中心に—”

藤井 翔太先生
(大阪大学 助教)

近代スポーツの母国とされるイングランドにおいて、フットボールは国民的スポーツとして特別な地位を築き上げてきた。特に、1880年代のプロ・フットボールの成立以降、現在のプレミアリーグが示しているように、イングランドを代表とする娯楽産業として発展してきたことは否定できないだろう。イングランドのプロ・フットボールに関しては、社会・経済的背景、クラブ運営の特徴、メディアやギャンブルなどの周辺産業などについて、1980年代以降多くの研究が蓄積されてきた。また、近年は競技統括団体であるFAやフットボール・リーグ(リーグ)の研究が出現するなど、あらゆる角度からプロ・フットボールの歴史に光が当てられている。

しかし、他の産業と異なるプロ・フットボールのガバナンスの特徴についてはまだ議論の余地が残っており、本報告では世紀転換期と戦後期の二度に渡って勃発したフットボール争議の分析を通じて考察したい。選手(選手組合)とクラブ(リーグ)の間で行われたフットボール争議の分析を通じて、現在のプロ・フットボールの世界でも大きな問題となっている契約・移籍・給与問題の歴史的起源をたどるとともに、フットボール界に独特の規則がいかにより正当化されてきたのか(社会に受け入れられてきたのか)考察する。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: masaki@waseda.jp